

# れきはく NEWS

vol.64  
2026.FEB

島根県立古代出雲歴史博物館の  
旬な話題や情報をお届けします

Shimane Museum of Ancient Izumo

## CONTENTS

- 2 展示リニューアル事業
- 3 学芸員通信／世界遺産室通信
- 4 古代文化センター通信／第10回弥生ブロンズネットワークリレー講座 春の出雲歴史めぐり
- 5 館蔵品の紹介
- 6 アテンダント通信
- 7 アテンダント通信／1月10日～12日に、名古屋中田ビルで「れきはくワークショップ」を開催しました／1月17日・18日に広島市で「しまねふるさとフェア2026」が開催
- 8 イベント・リニューアル記念特別展のお知らせ



出雲高校書道部と連携して  
『出雲国風土記』書道作品展を  
情報交流室で開催しました

# 展示リニューアル事業

令和6年度から始まりました改修工事也大詰めとなりました。天井耐震改修や設備機器の整備はほぼ終了し、現在、展示室の改修を実施しています。

## 1. 神話回廊の改修

### 1) 神話シアターの改修

出雲神話を映像で分かりやすく伝える神話シアターでは、天井耐震改修とあわせて映像機器やスクリーンの更新を実施します。いままでよりクリアな映像や音響でご覧いただくことができるようになります。

### 2) 神話展示コーナー・神話探検コーナーの改修

神話探検コーナーを県民に広く親しまれている出雲・石見・隠岐の各地域の祭りや芸能を紹介するコーナーに更新します。



(画像はイメージです)

### 3) シアターで上演している映像の制作

シアターでは1本約20分の映像を4本上演しています。約20年前の映像は画質が粗くなっていましたので、高画質で高品質な映像にリメイクします。



(画像はイメージです)

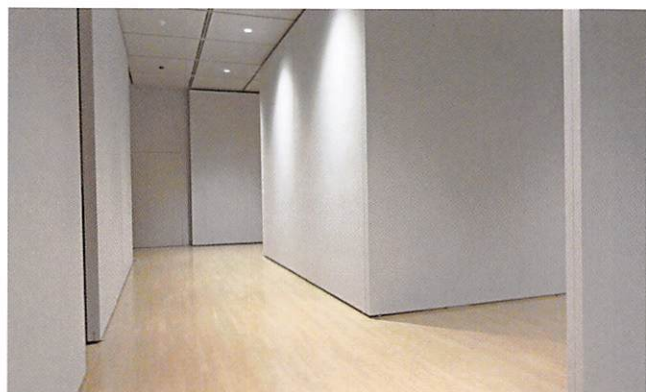
## 2. 総合展示室の改修

石見銀山関連の「丁銀」の実物を通期展示できる展示ケースを設置します。また、最新の調査研究成果を取り込んだ解説パネルを制作し、展示品も一部更新を行います。

## 3. 特別展示室壁面の再塗装

企画展ごとに解説パネルや写真を壁に留めるため壁表面に孔が多数できていました。再塗装を行うことにより表面を整え、パネルなど展示を見やすくします。

現在の特別展示室の様子▶



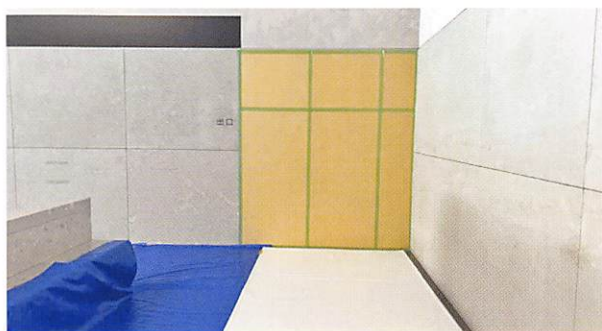
県内各地域の展示品の充実をはかり、広く島根県の歴史や文化の情報発信を行い、学校団体や社会教育での歴史教育の場としての利活用の促進を図りたいと考えています。

## 「改修工事中に気をつけることー文化財の保存のためにー」

現在、休館して行われている改修工事は順調に進んでいます。

工事では、どうしても埃や有害なガスが発生してしまいます。埃や有害なガスは文化財の材質を変化させる悪い影響を及ぼします。そこで、工事をしていない場所へつながる扉は締め切り、隙間をふさいで流入を防いでいます。

毎日の朝夕に扉の内側で埃の測定をして、空気がきれいであることを確認しています。また、工事が終わっ



中央ロビー工事のため展示室の出入口は隙間がないように!!

た展示室は、十分な換気をしたあとに、有害なガスが残っていないか測定します。

このような検査を何度も行い、展示室が良い環境になったことを確かめてから文化財を展示して、皆様をお迎えする準備を始めます。

再開館したあとも定期的に展示・収蔵環境を調べます。文化財の保存には、普段からの気配り、目配りが重要です。

学芸情報課 澤田正明



展示室内の有害ガスを測定中

## 石見銀山発見500年・世界遺産登録20周年に向けて 情報発信を進めています

石見銀山は、令和9(2027)年に、発見500年・世界遺産登録20周年の節目の年を迎えます。

これを記念して、令和8年秋に東京池袋の古代オリエント博物館、令和9年夏に古代出雲歴史博物館、令和9年秋に島根県大田市の石見銀山資料館でそれぞれ記念展を開催し、また同年秋には、大田市内で国際シンポジウムを開催する予定です。

記念展は、3館が連携しながら、それぞれ異なるテーマで石見銀山の500年の歴史を振り返る内容を検討しています。開催時期や会場は異なりますが、それぞれの館から石見銀山の魅力や歴史的価値を発信していきたいと考えています。ぜひご期待ください。

なお、今年度は、石見銀山発見500年に向けた機運醸成のための情報発信を行っています。昨年9月には「技術立国日本の原点～石見銀山そして江戸時代のSDGs社会～」と題して、大阪国際交流センターで石見銀山特別講演会を開催しました。国立科学博物館名誉

研究員の鈴木一義先生と石見銀山資料館館長の仲野義文先生を講師に迎え、今、世界中で取り組まれている「持続可能な開発目標(SDGs)」が、石見銀山では江戸時代に既に実現され、約250年間続いた平和な時代に知識や技術が発展したことを、当時の産業や学問、文化、そして鉱山の開発技術などを例に、さまざまな視点から解説をいただきました。

世界遺産室 真木大空



石見銀山特別講演会(令和7年9月27日開催、約700名参加)の様子

## 映像記録の作成と公開

島根県古代文化センターでは、基礎研究「祭礼行事調査研究」事業として祭りや芸能等の記録を作成しており、その成果としてこれまで63件について記録映像を制作・公開してきました。記録の対象は県域内の指定無形民俗文化財を中心としています。

今回は吉賀町で行なわれている島根県指定無形民俗文化財「下須の萬歳楽」を取り上げます。「下須の萬歳楽」は、ご神体を1年間お祀りした当屋宅で饗宴し、くじ引きによって決まった家に当屋とご神体を引き継ぐ行事です。令和7年の「下須の萬歳楽」は12月6・7日に開催されました。初日をヨド、二日目をヒノハレと呼び、当屋と当屋が所属する地区は2日間とも祭事や客の歓待にあたります。

ヒノハレの日、客が饗宴に出された高盛飯を食べると、お椀におかわりのご飯を入れようとする給仕人に対し客が「椀隠し」をする様子は例年地元メディアで報じられていますが、行事全体を捉えた一般に視聴可能な映像はこれまでありませんでした。

そこでヨド・ヒノハレ両日のほか、その準備や当屋宅での月次祭の様子も撮影させていただき、令和8年度には編集した映像の公開を予定しています。

過去に制作した一部の映像は、YouTube「しまこだチャンネル(古代文化センター公式チャンネル)」でもご覧いただけます。

古代文化センター 鄧 君龍



当屋宅で行なわれたヒノハレの饗宴

### 第10回 弥生ブロンズネットワーク リレー講座



各講座の参加者を募集します!

【電話申込】0853-53-8600(古代出雲歴史博物館)【FAX申込】0853-53-5350(古代出雲歴史博物館)

希望の講座名およびお名前と電話番号(携帯推奨)をお知らせください。

申込期間は2月14日~各講座の開催日3日前まで(当日申込不可)。

#### 荒神谷博物館

#### 荒神谷遺跡と神庭の四隅突出型墳丘墓を巡る

荒神谷遺跡と、近くの丘陵上に築かれた四隅突出型墳丘墓群をめぐります。

開催日時：2026年3月14日(土) 10:00~12:00

講師：宍道年弘・野中智(荒神谷博物館)

定員：20名 参加費：無料

集合場所：荒神谷博物館交流学習室

※動きやすい服装、歩きやすい靴でお越しください。

※四隅突出型墳丘墓群へは各自車で移動となります。(3分くらい)

※雨天の場合は交流学習室にて座学を実施します。

#### 古代出雲歴史博物館

#### 青銅器をさわって作って学ぼう!

弥生時代の青銅器についてのミニ講座と、銅鐸ペーパークラフト作り、青銅器レプリカに触る体験をおこないます。小さなお子様もお楽しみいただけます。

開催日時：2026年3月20日(金・祝) 14:00~15:30

講師：小田七奈(古代出雲歴史博物館)

定員：30名 参加費：無料

集合場所：古代出雲歴史博物館 講義室

※小学生以下の場合  
保護者同伴

#### 出雲弥生の森博物館

#### よみがえるな!「国富中村古墳」—未盗掘の後期古墳—

国富中村古墳の横穴式石室は盗掘を受けていない全国でも珍しい古墳です。普段は公開していませんが特別にご案内します。

開催日時：2026年3月15日(日) 10:00~12:00

講師：坂本豊治(出雲弥生の森博物館)

定員：20名 参加費：無料

集合場所：国富コミュニティセンター大集会室

※雨天の場合も実施します。

※石室内の見学は一人ずつになります。※石室内には梯子で降ります。

#### 加茂岩倉遺跡ガイダンス

#### ミニ銅鐸を作ってみよう!

銅鐸鑄造体験をするほか、加茂岩倉遺跡出土銅鐸について紹介します。

開催日時：2026年3月28日(土) 10:00~12:00

講師：黒田祥太(雲南市教育委員会文化財課)

定員：5名 参加費：無料

集合場所：加茂岩倉遺跡ガイダンス

※体験は小学生以上(小学生の場合保護者同伴)

## 史料が伝える祈りの平和運動

幕末嘉永6年（1853）のペリー来航から徳川幕府が崩壊するまでのわずか15年間に、安政大地震やコレラの流行が相次いで起こりました。開国をめぐって佐幕派と攘夷派が対立して内戦状態となり、物価は高騰し、人々の生活は追い詰められていました。

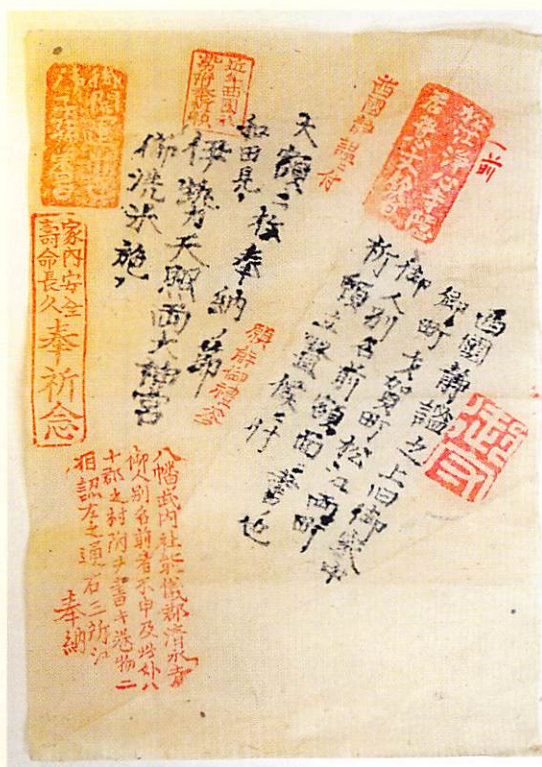
松江市の売布神社の南隣に浄心寺があります。この寺で住職をつとめ、当時すでに隠居していた金嶺慧文は、この社会状況を深く憂え、世の中が再び平和安穩になるために、自分は何ができるのだろうかと深く考えました。

彼は偉大な二人の先達（黄檗宗の鉄眼道光と東大寺の公慶）を思い起こしました。鉄眼は版木数万枚にもおよぶ大蔵経の刊行（黄檗版）を、公慶は戦乱で荒廃した大仏の修復・大仏殿の再建を、いずれも一代で成し遂げています。個人の力はたかが知れているが、人々が共感し大きなうねりとなれば、実現不可能と思われることも必ず成就すると考えた慧文は、出雲国内の寺社に祈願の額を奉納して、天下静謐、万民安穩をひたすら祈り続けました。額を奉納した寺社の数は2,200ヶ所にもおよびました。

政権が新政府へ引き継がれ、再び世の中が穏やかになってきた明治3年（1870）、慧文は神仏への感謝と人々の更なる幸せを願って、松江の平浜八幡宮と安来の清水寺に、巨大な満願成就の額および松江全世帯名・出雲国内の村名を列記した巻物を奉納しました。また和田見の伊勢宮（松江市伊勢宮町にあった伊勢宮）では、願解きの御礼参りに際して、人々に御洗米を配布しました。

写真は、この時配布された御洗米の包紙で、当館所蔵の山内曲川（幕末明治の頃の松江の俳人・茶人）の俳諧資料の中に含まれていました。

学芸企画課 岡 宏三



広げた状態の御洗米の包紙

明治3年(1870)

15.7×11.1cm 当館蔵

手のひらにおさまるほどの小さな紙面に「松江浄心寺隠居慧文欽白」「願解御礼参」など、10種類の印が捺されている。

# アテンダント通信

## ヤマタノオロチ伝承地かけめぐり研修

リニューアルオープンを記念して開催される特別展「その後のヲロチとスサノヲ」。私たちアテンダントは、ヤマタノオロチ伝承について理解を深めてお客様のご案内に役立てようと、オロチの伝承地かけめぐり研修を行いました。地元ガイドの濱村愛子さんの案内で向かったのは雲南市や奥出雲町。今でもオロチの伝承がたくさん残る地域です。オロチの頭を埋めたあと植えられたという「八本杉」、オロチの住処「天が淵」など、オロチの逸話が残る伝承地を駆け巡りました。

最後に訪れたのは日本初ノ宮「須我神社」。オロチを退治したスサノヲノミコトが日本最初の和歌を詠んだとされる地です。直前まで降っていた雨が上がった後の境内は、空気が澄んでいてまさに清々しいという言葉がふさわしい雰囲気でした。須我神社から2キロほど離れた八雲山中腹にある奥宮にも参拝しました。登山口からおよそ400メートル登ったところに奥宮があり、寄り添うように大小3つの巨岩があります。その巨岩には「スサノヲノミコト」、「クシナダヒメ」、二人の子「ヤシマノミコト」が鎮まっておられます。木々がざわめいたり強い風が吹いたりすると、神様の気配を感じるような不思議な感覚になります。古代の人も自然の中に神々の姿を見たのかもしれないね。



八本杉



天が淵



須我神社奥宮



須我神社

## 八雲立つ風土記の丘研修

休館中を利用して史跡や神社を巡りました。今回訪れたのは、松江市の八雲立つ風土記の丘エリア。出雲国風土記とも関わりの深い地域です。国引き神話で、国引きを終えた八束水臣津野命が「おえ」と言って杖をついた場所とされる「意宇の杜」(推定地とされる場所は2カ所あります)。現地を訪れるのはほとんどのアテンダントが初めてです。車がたくさん行き交う道路のすぐ横にあり、現代の風景の中に溶け込んでいる神話の伝承地に、なんだか不思議な気持ちになりました。意宇の杜の他には、出雲国府跡や山代二子塚古墳なども見学しました。

また島根県立八雲立つ風土記の丘展示学習館も訪れ、展示室と岡田山古墳をボランティアガイドの方に解説していただきました。軽妙な語り口で出雲国風土記や奈良時代の出雲について語ってくださり、知識の豊富さと地元への誇りを感じました。私たちもリニューアルオープンした際には、出雲に来て良かったと思っただけのご案内をしたいと改めて思いを強くしました。



## アナウンス研修

スキルアップをするべく、英語や姿勢、アナウンスなど日々様々な研修を行っています。休館中、フリーアナウンサーの方をお招きして2ヶ月に1回アナウンス研修を行っています。まず「自分の声を知る」をテーマに1人1人の「声」を録音して分析してみました。それぞれの声のコンディションや特徴を活かした話し方を教えていただきました。また自己紹介スピーチで自分の思いを言葉にして伝える練習や、司会をする際の大切なポイントなどを、実践を交えて1人1人に指導していただきました。全員の前で話すというのは緊張しましたが、お互いの新たな一面を見ることができ、実りのある研修となりました。



## 風土記の庭植物調査チーム

令和7年4月から始まった、新たに植物図鑑&マップを作るための風土記の庭植物調査。季節ごとに植物たちのいろいろな表情を発見することが出来ました。例えば春には草の陰に隠れ、その姿を探すのが毎回困難だったノギリソウやワレモコウ。夏になるとあつという間に周囲の植物を追い越し、次々と花を咲かせました。雨の少ない猛暑の夏、ワラビ(たち)は私たちの心配をよそに小さなジャングルのように生い茂っていました。ここでは紹介しきれませんが、どの植物もその生命力に驚かされっぱなしです。

いよいよ本格的に図鑑とマップのデザインやレイアウトなどがまとまりつつあります。どんな図鑑にするのか、植物のどんな情報を盛り込んでいくのか、メンバーでミーティングを重ね、意見を出し合い進めています。完成したら皆さまにこの図鑑&マップを手に風土記の庭を散策していただけると嬉しいと思います。どんな図鑑&マップが完成するのかお楽しみに!



## 1月10日~12日に、名古屋中日ビルで「れきはくワークショップ」を開催しました



7月の大阪、11月の東京に続いて3回目の県外でのワークショップ。今回も大盛況のイベントとなりました。

ワークショップでは、「和風本メモ帳作り」「銅鐸トートバック作り」に加え、「勾玉作り」も行いました。石を削って好みの勾玉の形に整えていきますが、お子様から大人の方まで皆さん時間を忘れて真剣な表情で磨いていらっしゃいました。「銅鐸トートバック作り」では定番の2色に加えて、名古屋限定色「光るブルー」も用意したところ大人気で、個性豊かなたくさんの作品が出来上がりました。どのワークショップも連日たくさんの方にご参加いただき楽しんでいただきました。

しまねっも遊びに来てくれて会場を盛り上げてくれました!

「青銅器の復元品に触れてみよう」のコーナーも大人気で、青銅器のなぞと不思議に触れ、古代出雲に興味をもっていただけたのではないかと思います。

お立ち寄りいただきました皆さま、ありがとうございました。



## 1月17日・18日に広島市で「しまねふるさとフェア2026」が開催されました

島根県内の各地域の観光PRやワークショップ、特産品の販売など約120のブースが並び、天候にも恵まれ12万人をこえる来場者で賑わいました。歴博ブースでは、青銅器の復元品に触れるコーナーやプラ板キーホルダー作り、ミュージアムショップを出展。立ち寄った方々は思い思いに楽しんでくださり、歴博を知っていただく良いきっかけになれば嬉しく思います。



# イベントスケジュール

今後開催予定のイベントをお知らせします。  
天候等の都合により内容の変更、中止になる場合があります。

2/8(日) 第9回学芸員が語る!ミュージアム講座  
「日本三大そば・出雲そばの歴史と、将軍家への献上品」  
講師:専門学芸員 岡 宏三

3/8(日) 第10回学芸員が語る!ミュージアム講座  
「県外に伝わった石見神楽」 講師:専門学芸員 藤原宏夫

3/15(日) 開館記念イベント「れきはくであそぼ」  
歴博の見どころを楽しく紹介する「紙芝居」や工作  
コーナー「つくってあそぼ」、「ダンボール迷路」など楽  
しい催しが盛りだくさん!



4/26(日) 「れきはく春まつり2026」

※内容等は決定次第、ホームページ等でお知らせします

【イベントに関するお問合せは、古代出雲歴史博物館 TEL.0853-53-8600まで】

## リニューアルオープン 令和8年10月(予定)

### リニューアル記念特別展

#### その後のヲロチとスサノヲ

2026年10月9日(金)～11月29日(日)

※会期中の休館日/10月20日(火)・11月10日(火)・11月17日(火)

貴神でありながら、高天原を追われたスサノヲ。しかし地上世界に降り立つや勇猛にヤマタノヲロチを退治して平安をもたらしました。この「スサノヲのヲロチ退治」は日本神話のなかでも最も良く知られ、人気の高い物語です。ところが中世以降、ヲロチ退治神話の筋立ては次第に変化していき、「ヤマトタケルを死に追いやった伊吹山の神がヲロチで、その子が酒吞童子」など、様々な説話が新たに出現しました。

この特別展では、神話の変容を通して、単に「悪神・英雄神」という図式では説明しきれないヲロチとスサノヲの姿に迫ります。



大野明山作  
須佐之男命  
出雲大社蔵



島根県立古代出雲歴史博物館  
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4  
TEL.0853-53-8600代 FAX.0853-53-5350  
[URL]<https://www.izm.ed.jp> [E-mail] [contact@izm.ed.jp](mailto:contact@izm.ed.jp)  
令和7(2025)年4月1日～令和8(2026)年9月(予定)の間、  
耐震改修工事等のため休館



マスコットキャラクター  
雲太くん



発行/令和8年2月



マスコットキャラクター  
出雲ちゃん